

# 昇太郎ニュース: Vol.009

弊社ホームページと楽天ショップで、防災備蓄品のアンケートを取りましたのでレポートします。

また、5回にわたって紹介した「地図にみる関東大震災」は今回で終了です。いかに人的に地震被害を減少させるかの資料になれば幸いです。

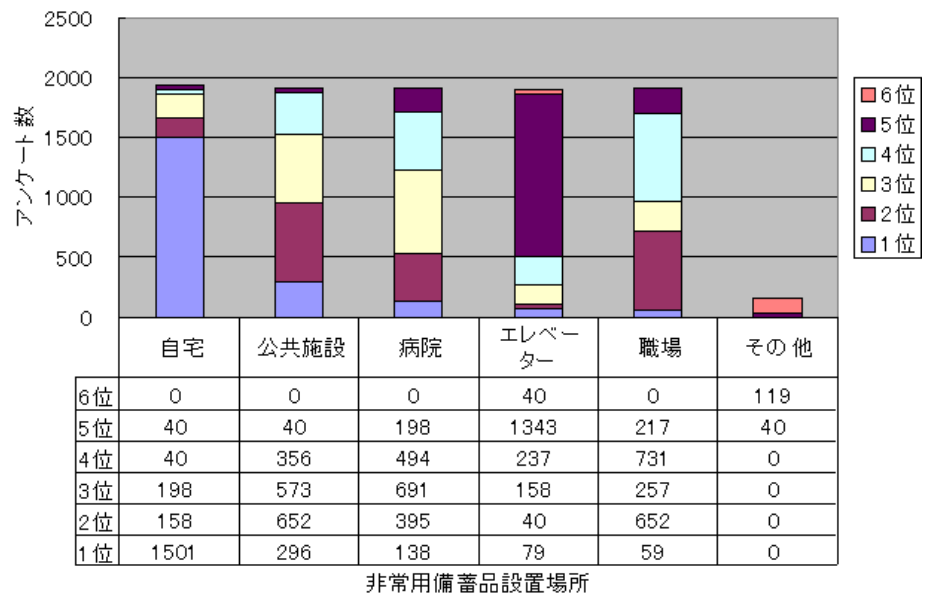
## 非常用備蓄品設置場所アンケート

### 非常用備蓄品アンケート

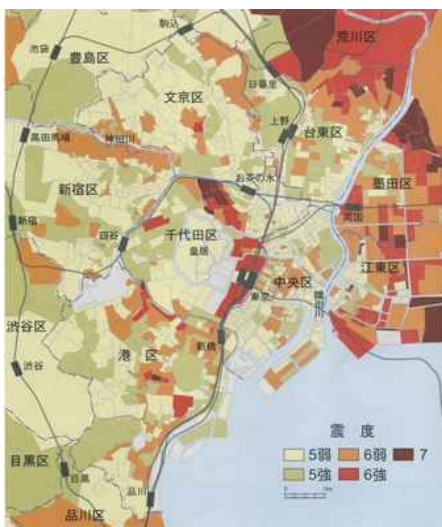
7月に災害備蓄品の収納場所についてアンケートを実施しました。1,975名の方にご協力いただき、大変感謝しております。

結果としては、前回のアンケートと同様に、エレベーター内での備蓄品設置がほとんどないという結果に終わりました。アンケートに回答いただいた方々も、地震の際に自分がエレベーター内にいる確率はほとんどないと考えられているようです。

しかし、万が一に自分が閉じこめられた時はどうなるのでしょうか？他の場所に災害備蓄品は設置されていても、エレベーター内からは取りにいきません。通常でも一日に30件程度のエレベーター閉じ込め事故は発生しています。近日、中規模地震が、多発しています。エレベーター内への備蓄品設置は、緊急を要すると考えられます。



### 地図にみる関東大震災：第5章 地震災害の軽減をめざして



関東地震のころに比べると、現在は格段に測量技術が進歩しました。その代表は、カーナビなどで身近になっているGPS(Global Positioning System 全地球測位システム)です。GPSにより、これまで研究者が想像もしていなかった現象がとらえられるようになってきました。

その成果の一つが房総半島で見つかったじわじわと進む地殻変動です。この地殻変動の正体は、プレートの境界面で数日にわたって生じるゆっくりとしたすべりであることが明らかになっています。

左図は、東京駅近郊、皇居と御茶ノ水間、隅田川の東岸、上野駅や日暮里駅の北東側で震度が大きく、6強から7となっています。また、神田川に沿って震度が大きい地域が伸びています。標高の分布と比較すると、これらの震度が大きかった地域は、低地や谷にあたることを読み取ることができます。現在は、これらの最新データを元に、災害準備ができるようになってきました。

以上